



制度〈基本〉

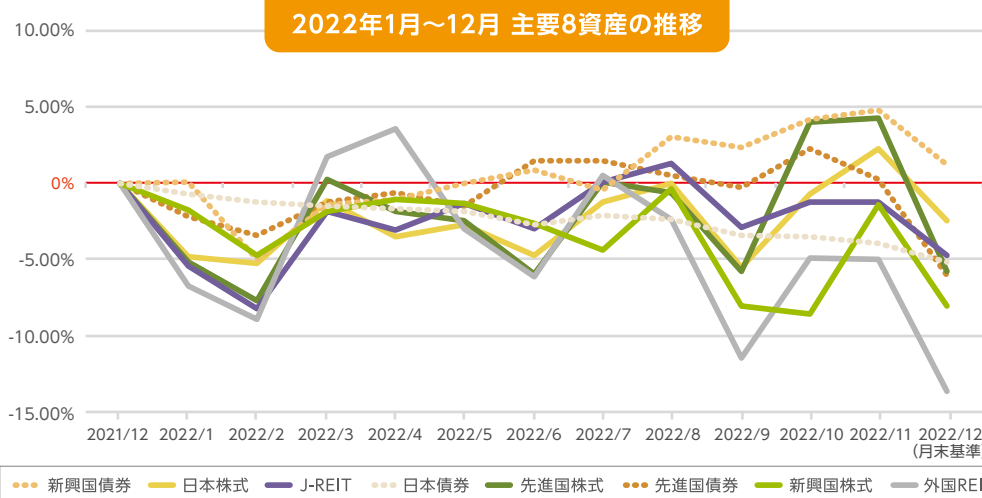
運用・商品〈基本〉

運用・商品〈実践〉

その他

2022年の各資産はどんな動きだった？

2022年はロシアのウクライナ侵攻等をきっかけとする世界的なインフレと主要中央銀行の利上げの影響により、総じて低調な動きとなり、新興国債券を除いた各資産はマイナスリターンとなりました。各資産の値動きを振り返ってみましょう。



米国をはじめとした主要国の金融引き締めが、各市場に大きく影響を与え、どの市場も軟調な動きとなりました。りそな銀行ご利用者の1年間の平均利回りもマイナスとなりました。

〈1年平均利回り〉

個人型	企業型DC	▲2.43%
	DC個人型プラン	▲1.19%
	つみたてiDeCoプラン	▲5.28%

株式

2022年は、2月24日のロシアのウクライナ侵攻開始に端を発した地政学リスクの高まりによる原油等のエネルギー価格の高騰等により、世界的なインフレが拡大しました。これを受け、米国FRBが実質的なゼロ金利政策を転換して3月16日に0.25%の利上げを実施し、他国も追随したことにより、資金が債券市場に流れ、株式相場は世界的に低調に推移しました。以降もインフレを抑制するため、米国金利は7回連続で段階的に引き上げられ(年初0.125%→年末4.375%)、景気減速懸念が続きました。日本株式も、地政学リスクの高まりや米国金融政策の影響を受けた1年でした。後半は、円安がより進んだことに加えて、10月に全国旅行支援が開始され、入国時の水際対策が大幅に緩和される等で、経済活動の本格化への期待が高まったことから、底堅く推移しました。新興国株式は、金利の急上昇、ウクライナ問題、中国のゼロコロナ政策等が打撃を与え、一年を通じて下落の流れとなりました。

債券

債券市場全体では、インフレの高止まりや、主要中央銀行による積極的な利上げ等により、先進国の長期金利が6月～11月にかけて大きく上昇する展開となりましたが、年末にかけては利上げペースの鈍化を材料に、長期金利が低下に転じる動きとなりました。日本債券は長らく低水準で推移していましたが、12月20日に日銀が大規模緩和を修正し、長期金利の変動許容幅を拡大すると、長期金利が急上昇し、価格が低下しました。

REIT (リート)

外国REIT市場は、世界的な利上げによる長期金利上昇で、欧米を中心に大幅な下落となりました。J-REIT市場も同様の影響を受け、年末には日銀が大規模な金融緩和からの転換を示唆したことから、下落が見られました。

コラム

経済指標にも注目してみましょう

市場の値動きには、金利動向や各国が発表する経済指標等が影響を与えることがあります。最近では、米国の経済指標が予想に反して良かったことで、ドル高・円安に振れるという場面もありました。経済指標にも注目しながらニュースを見てみましょう。

★注目すべき指標については、「りそにゃ」とまなぼ!2022年12月号『為替相場はなぜ変動するのでしょうか?』も併せてご覧ください。



確定拠出年金の各種手続きの方法は「便利な手続き集」からご覧いただけます。

便利な手続き集はこちら



<https://www.resona-tb.co.jp/401k/pop/channel/process/>

2023年2月発行

りそな銀行 年金業務部 確定拠出年金室
〒540-8607 大阪市中央区備後町2-2-1

本レターに関するお問合せ先

りそな銀行 確定拠出年金コールセンター
☎ 0120-401-987+「2#」

本レターの無断引用・転載はお断りします。